

令和6年度 総合型選抜（A0型選抜）

（水産学部水産学科）

小論文

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで問題用紙を開かないこと。
2. 解答時間は90分である。
3. 問題用紙（表紙、白紙を含む）は4枚、解答用紙は2枚、下書き用紙は2枚である。落丁、乱丁、印刷の不鮮明なものがあったら申し出ること。
4. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
5. 解答は、必ず解答用紙の所定の欄に記入すること。
6. 解答は、解答用紙に横書きし、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きで記入すること。
7. 解答に字数制限がある場合には、句読点、単位（例：t）、および数字は1マスとすること。
8. 試験終了後、解答用紙、問題用紙、下書き用紙を回収するので、持ち帰らないこと。

問題

問題1

図1は、我が国の食用魚介類における自給率（重量ベース）および国内消費仕向量、国内生産量、輸入量の推移を表しています。自給率（重量ベース）および国内消費仕向量はそれぞれ次の式によって求められます。

$$\text{自給率（重量ベース）（\%）} = (\text{国内生産量} \div \text{国内消費仕向量}) \times 100 \quad (\text{式1})$$

$$\text{国内消費仕向量} = \text{国内生産量} + \text{輸入量} - \text{輸出量} \pm \text{在庫の増減量} \quad (\text{式2})$$

図1を読み取り、式1および式2を参考にして、我が国の食用魚介類の自給率の変化の特徴について、国内生産量、国内消費仕向量、輸入量の変化と合わせて350字以内で記述しなさい。ただし、輸出量と在庫の増減量は考慮しないこととする。

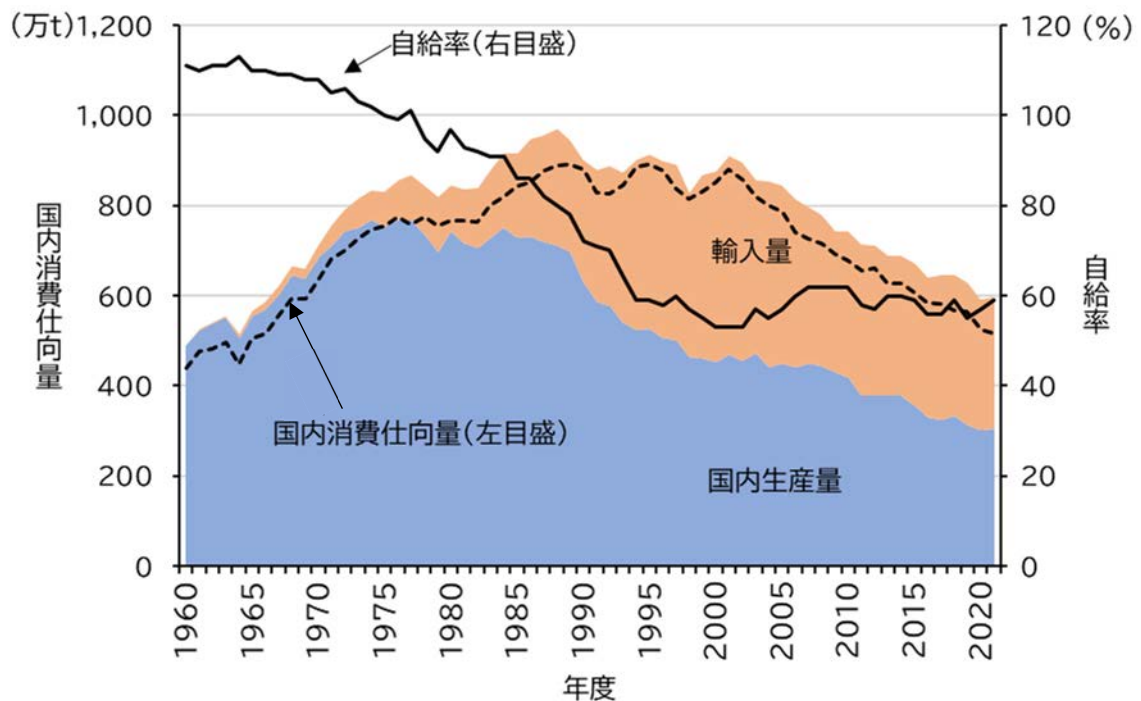
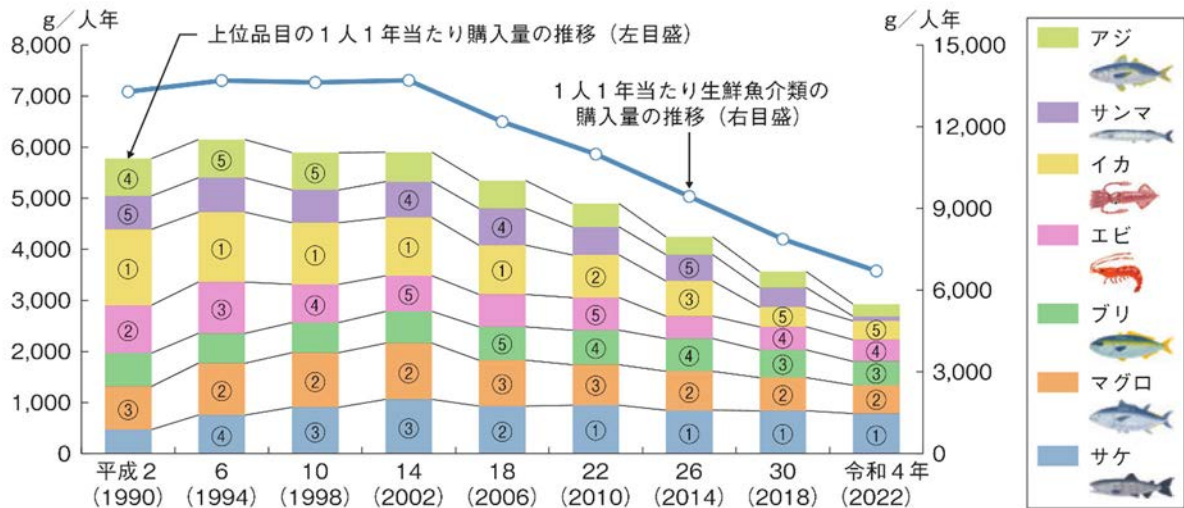


図1 食用魚介類の自給率（重量ベース）（実線）、国内消費仕向量（破線）、国内生産量（青）、輸入量（オレンジ）の推移

資料：令和4年度水産白書に基づき作成

問題 2

図 2 は、我が国の 1 人 1 年当たり生鮮魚介類の購入量およびその上位品目の 1 人 1 年当たり購入量の変化を表しています。図 2 から読み取れる事柄を 3 つ挙げるとともに、それらの理由として考えられることを記述しなさい (400 字以内)。



資料：総務省「家計調査」に基づき水産庁で作成

注：1) 対象は二人以上の世帯 (平成11 (1999) 年以前は、農林漁家世帯を除く。)

2) グラフ内の数字は、各年における購入量の上位5位までを示している。

3) 平成30 (2018) 年1月に行った調査で使用する家計簿の改正の影響による変動を含むため、時系列比較をする際には注意が必要。

図 2 我が国の 1 人 1 年当たり生鮮魚介類の購入量およびその上位品目の 1 人 1 年当たり購入量の変化

資料：令和 4 年度水産白書から転載